

多読クラブの皆様へ

書籍追加のお知らせ 2006年8月

Puffin Easy-to-Read のレベル2に入っている Young Cam Jansen シリーズを 9 冊。
すばらしい記憶力をもつ Cam がその記憶力で毎回小さな謎を解きます。単純でミステリーとまではいきませんが、謎解き系シリーズの入門書として楽しめると思います。Y.L.:1.3-1.5 です。このシリーズは近日入荷予定の Cam Jansen シリーズにレベルアップしてつながっていきます。

- Young Cam Jansen and the Ice Skate Mystery Y.L.:1.5 総語数 1100
- Y.C.J. and the Zoo Note Mystery Y.L.:1.3 総語数 1000
- Y.C.J. and the New Girl Mystery Y.L.:1.3 総語数 1100
- Y.C.J. and the Double Beach Mystery Y.L.:1.3 総語数 1200
- Y.C.J. and the Dinosaur Game Y.L.:1.5 総語数 1200
- Y.C.J. and the Missing Cookie Y.L.:1.4 総語数 1100
- Y.C.J. and the Baseball Mystery Y.L.:1.3 総語数 1200
- Y.C.J. and the Lost Tooth Y.L.:1.3 総語数 1000
- Y.C.J. and the Pizza Shop Mystery Y.L.:1.4 総語数 1300



A to Z Mysteries シリーズから 7 冊

英語レベルは Magic Tree House と同程度の 3.2-3.5、挿絵も豊富です。少年探偵シリーズは他にも沢山ありますが、このシリーズは 1997 年に始まっているので、現在のアメリカの子供達の日常生活を垣間見る楽しみもあります。それぞれの本のタイトルがアルファベット順にそろっていて、26 冊のシリーズです。

第 1 巻 ● The Absent Author Y.L.:3.5 総語数 7000

Dink は、大好きな有名ミステリー作家 Wallis Wallace に手紙を書き、自分たちの町 Green Lawn に招待することに成功した。しかしサイン会をするはずの書店に大勢の子供達が集まっていた約束の日、いくら待っても彼は現れない。Dink は親友 Josh、Ruth と一緒に、彼がどこで消えたのか探し始めた... 「たかが子供のミステリー、こいつが犯人だ〜」と気楽に読んでみると、あれ、そう簡単には問屋が卸さない... 以下第 7 巻まで

- The Bald Bandit Y.L.:3.3 総語数 6500
- The Canary Caper Y.L.:3.5 総語数 7000
- The Deadly Dungeon Y.L.:3.5 総語数 7000
- The Empty Envelope Y.L.:3.2 総語数 7200
- The Falcon's Feathers Y.L.:3.5 総語数 8000
- The Goose's Gold Y.L.:3.5 総語数 7200



もともとは高校生向けの副読本として作られているもので、新出語句の日本語訳が載っていたりして、学習っぽい感じがあります。朗読CD付き。わりと新しい身近なトピックが中心なのでわかりやすいはずです。

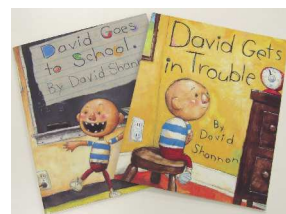
- What's Up? 2006-7 Y.L.:2.5 総語数 3200
- Watching 1 2006-7 Y.L.:2.2 総語数 2600
- Watching 2 2006-7 Y.L.:2.6 総語数 3000



先月ご案内した刺激的な絵本、Oh, David, No, David の続編 2 冊です。成長してしゃべったり（言い訳中心）、学校に行きだしたりします。絵だけでもおもしろい。

●David Goes to School Y.L.:0.4

●David Gets in Trouble Y.L.:0.6



●A Color of His Own Y.L.:0.5 総語数 200

日本でもおなじみの絵本。象は灰色、豚はピンク。すべての動物は自分自身の色を持っている。でも、カメレオンは別。いく場所場所で色が変わってしまう。カメレオンが自分の色を探しにいき、ついに真の友を見つける心温まる話しです。コールデコット賞を多数受賞しているレオ・レオニの作品です。



●English Zone Vol.22 Y.L. 3.5 総語数：28000

日本人英語学習者向けの英文雑誌です。結構難しい記事も含まれていますが、日本の有名人とのインタビュー記事なども多く、すでに背景のわかっている内容については、とばし読みで理解できるでしょう。無理に全部読もうとせずに、興味のあるものだけ拾い読みするをお勧めします。読上げCD付き。ネット上で全記事の日本語訳が公開されていますので、どうしても意味を調べたい時は便利。



●Winnie - the - Pooh YL:5.5 総語数 21500

ご存知、くまのプーさん。クリストファー・ロビンは、お父さんに、くまのぬいぐるみ Winnie-The-Pooh のお話をして！とせがみます。お父さんは、Pooh を主人公にしてお話をはじめます。はちみつをとりにいくお話、うさぎの家を訪問したときのお話など、Pooh と仲間たちのおかしくて愉快なお話がつまっています。これはちゃんとした児童書でレベルも高めです。読み上げCDがありますが、本の内容とは完全一致しません。



*代表的なGRである Penguin Graded Reader のレベル2（黄色）は 110 冊の蔵書がありますが、実教教室と習志野台とに半分づつ分かれています。夏休み明け、9 月上旬に両教室間で全交換します。
*Catch a Wave を毎月欲しいかたは受付にお申し出ください。入荷次第、取り置きして差し上げます。8 月末分は休刊です。

編集後記

ここ 1 ヶ月くらいの間にお二人の方にOBWの「New York Café」はよくわからなかったというご意見をいただきました。私自身も 3 年前、SSS のスターターセットに入っていたのを読んだ時に、知らない単語は一つも無いのに内容がわからなかった本で、印象に残っています。注意深く再読してみると、これはやはりインターネットの知識がある程度必要で、しかも複数の人物を取り違えないように注意しないと、英語はわかっても、あらすじが理解不可能（迷子）になりやすい本だと思いました。こんなふうに、英語そのもののレベル以外に、登場人物の数、常識での推測しやすさ、背景となる知識、それと興味関心。。などなど、読みやすさには、さまざまな要素がからみます。読んでいてつまらない、よくわからないと思った時は、我慢せずに、別の本を開きましょう。読み始めた本を途中でやめるのは勇気がいるかもしれませんが、またいつか。。と思えば楽です。我慢してがんばるのは反動が怖いです。つまらない本を途中で読むのを止めることをSSSでは「投げ技」と称して推奨しています。ヘンミ。